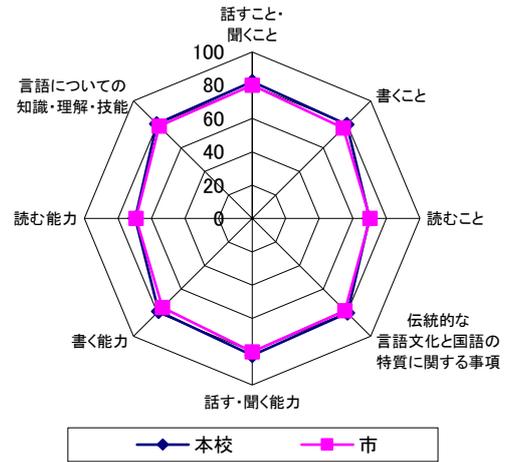


宇都宮市立一条中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	82.2	80.1	77.9
	書くこと	79.8	76.8	65.3
	読むこと	69.9	70.3	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.3	78.3	74.3
観点別	話す・聞く能力	82.2	80.1	77.9
	書く能力	78.7	75.6	64.2
	読む能力	69.7	69.2	65.4
	言語についての知識・理解・技能	80.4	78.4	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

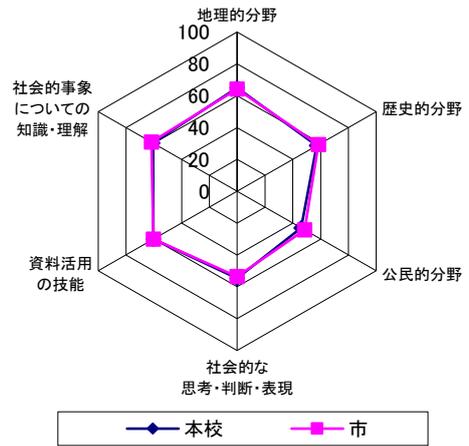
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市の平均正答率を2.1ポイント上回っている。 ○特に、話の内容を正確に聞き取ることができる設問については、97.3%と高い正答率となっている。 ●互いの発言を検討して自分の考えを述べることのできる設問については、市の平均正答率は上回っているものの、6割程度にとどまっている。	・話すこと・聞くことは双方向の活動である。聞くことだけでなく、その発言を検討し、さらに自分の考えを持ち、述べる必要があることである。今後の重点としては、授業の中で、互いの発言を検討し、さらに自分の考えを持ち、述べることのできる課題設定による話し合い活動を取り入れたい。
書くこと	市の平均正答率を3.0ポイント上回っている。 ○自分の考えの理由を書くことができる設問が、89.0%と最も高く、市の平均正答率をやや上回っている。 ●社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめる問題は、市の平均正答率は4.1ポイント上回っているものの、5割程度にとどまっている。	・条件に合わせて自分の考えを根拠を明確にして書くことは、授業を通して取り組んできたため、身に付いていることが分かる。 ・文章を読んだうえで思考の流れを考える活動はあまり経験がないと思われる。しかし、思考することなく書く活動を行うことはできないので、自分が書くときにどんな思考をしているか、ということに目を向けさせ、より書く能力の向上を図りたい。
読むこと	平均正答率が4領域で最も低く7割に届かず、市の平均正答率を0.4ポイント下回っており、課題が見られる。 ●説明的文章においては、要旨を捉えることや文章の展開に即して内容を捉え、それを整理してまとめることに苦手意識を持つ傾向がみられる。文学的文章においては、文章の表現の特徴を捉える設問が市の平均正答率を3.7ポイント下回っている。	・説明的文章においても文学的文章においても、正答率の低さの一つの要因として語彙が少ないことが挙げられる。会話においては、言葉以外の要素から読み取り理解することができるが、文章で言葉のみの理解になったとき、やはり言葉の持つ意味を知らないために理解できない傾向がある。授業だけでなく、日頃の読書や生活の中でも、様々な言葉に触れ、意味を理解するよう働きかけたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の平均正答率を2.0ポイント上回っている。 ○漢字の読み問題については正答率がほぼ9割を超えているが、書きの問題では正答率にバラつきが見られる。 ●用言の活用についての理解の問題と、類義語・対義語の問題については、それぞれ市の平均正答率を2.0ポイント程度下回っている。	・漢字の読み書きについては、今後も漢字練習の宿題とそれに対応した漢字テストの実施を継続して行う。 ・文法の学習については、1・2年時の学習内容を復習する機会を設け、確実な定着を図りたい。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	65.0	64.1	57.5
	歴史的分野	57.2	58.4	52.8
	公民的分野	46.1	48.5	40.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	54.6	53.6	47.5
	資料活用技能	60.2	60.3	53.3
	社会的な事象についての知識・理解	60.7	61.8	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

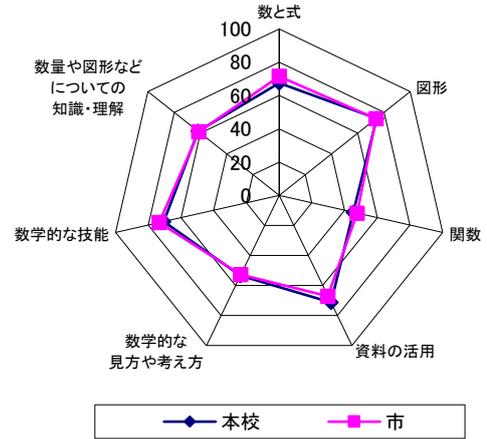
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○領域別正答率は、市の平均よりも0.9ポイント上回っている。特に、日本各地の気候の特色について資料から判断する問題の正答率は市の平均を3.5ポイント上回っている。 ●内容別正答率では、「地球の姿」の正答率は市の平均を0.9ポイント下回っている。	・主題図やグラフから必要な情報を読み取る学習活動を授業で重点的に取り入れる。 ・多様な視点から社会的な事象に気づかせるように、グループ活動や話し合い活動を積極的に取り入れる。
歴史的分野	○内容別正答率では、複数の資料から判断する問題は、市の平均を上回っており、特に古代の問題は市の平均を1.9ポイント上回っている。 ●領域別正答率は市の平均より低く、1.2ポイント下回っている。 ●内容別正答率では特に江戸時代の鎖国について問う問題では全国の平均よりも4.5ポイント下回っており、市の平均よりも10.6ポイント下回っている。	・各時代の特徴を理解し、時代ごとの共通点や相違点について比較できるように、単元や分野全体を見通した学習指導を実施する。 ・資料から当時の社会の様子や因果関係を読み取ることができるよう、資料活用の機会を積極的に設ける。
公民的分野	○内容別正答率では、日本国憲法について問う問題は、全国の平均を35.5ポイント上回っており、市の平均よりも2.5ポイント上回っている。 ●領域別正答率は、市の平均よりも2.4ポイント下回っている。内容別正答率で見ると、5問中4問が市の平均を下回っており、基礎・基本の定着に課題がみられる。	・基礎・基本の定着を図るために、適宜既習の内容の復習を行う。 ・現代社会の諸問題を例に、グループ活動や話し合い活動を積極的に取り入れ、思考の深まりを促すような授業を展開する。 ・政治や経済のしくみについて、仕組み図を用いるだけでなく、具体的な事例を取り上げて興味・関心を高める学習指導を実施する。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	67.5	71.5	66.8
	図形	74.4	73.8	70.4
	関数	45.3	47.8	41.6
	資料の活用	71.3	67.1	61.4
観点別	数学的な見方や考え方	53.4	52.8	45.8
	数学的な技能	70.5	73.3	68.1
	数量や図形などについての知識・理解	61.8	61.2	57.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

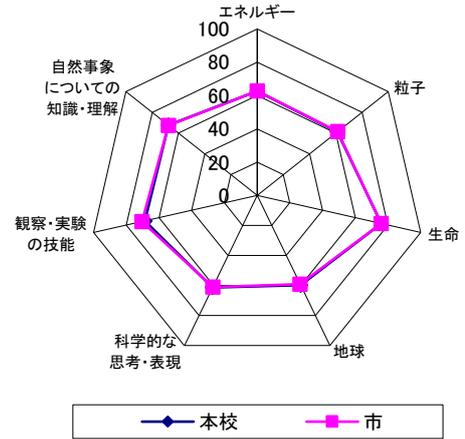
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○「自然数の意味を正しく理解し、自然数を選ぶ」問題では、正答率が市の平均を1.6ポイント上回っている。 ●領域別正答率は市の平均を4ポイント下回っている。特に「根号を含む式の乗法」の問題では、正答率が市の平均を8.6ポイント下回っている。	・1次式の減法、単項式の乗除の混じった計算、乗法公式を使った展開、因数分解などの基本的な計算力を身につけると同時に、平方根を含んだ計算について十分に演習問題を繰り返していく。
図形	○領域別正答率は市の平均を0.5ポイント上回っている。特に「証明の必要性と意味を理解している」では、正答率が市の平均を4.5ポイント上回っている。 ●「証明に必要な三角形の相似条件を選ぶ問題」では、正答率が市の平均を7.6ポイント下回っている。	・三角形の相似条件をもう一度確認し、証明に必要な三角形の相似条件を選ぶ問題を振り返り、合同条件などの定理とも関連付けながら理解することができるように、今後も引き続き取り組んでいく。
関数	○「比例の関係での、x, yの値の変化の関係について理解している」では、正答率が市の平均を1.5ポイント上回っている。 ●領域別正答率は市の平均を2.4ポイント下回っている。特に「1次関数について、式とグラフを関連づけて理解している」では、正答率が市の平均を5.7ポイント下回っている。	・多様な問題に対応できるように、表・式・グラフを関連づけて授業を行っていく。
資料の活用	○領域別正答率は市の平均を4.2ポイント上回っている。特に「グラフを読み取り、多数回の試行の結果から得られる確率としてもっとも適切なものを選ぶ問題」では、正答率が市の平均を10.1ポイント上回っている。 ●「あたる確率をもとに、あたらない確率を求めることができる」では、正答率が市の平均を1.3ポイント下回っている。	・様々な事象について反復練習を行い、確率の意味や用語等の再確認をしながら授業を行う。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	62.7	62.7	57.6
	粒子	61.2	61.5	57.7
	生命	75.9	75.8	72.1
	地球	59.9	59.0	45.0
観点別	科学的な思考・表現	61.3	61.0	54.8
	観察・実験の技能	68.6	70.4	64.1
	自然事象についての知識・理解	67.6	67.6	62.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

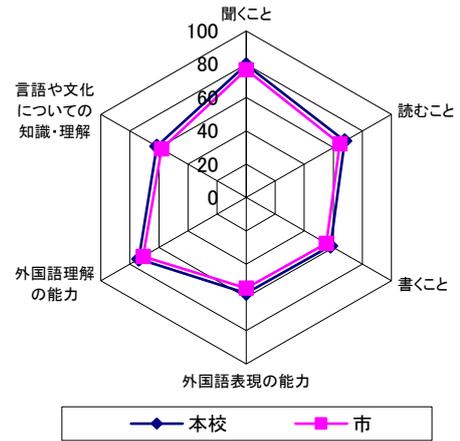
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>領域全体としては、ほぼ市の平均と同等である。</p> <p>○抵抗器のつなぎ方による電圧と電流の関係のグラフの違いを問う問題では、市の平均を7.4ポイント上回っている。</p> <p>●弦を張る強さと音の高さの関係を調べるための対照実験を問う問題では、市の平均を6.2ポイント下回っている。</p>	<p>・対照実験のときに、目的とのために統一する条件について意識させながら実験に取り組ませる。</p> <p>・課題を解決するためには、どんな実験を行えばよいのかを考えさせる機会を多くつくる。</p>
粒子	<p>領域全体としては、ほぼ市の平均と同等である。</p> <p>○電流が流れない水溶液を選ぶ問題では、市の平均を5.5ポイント上回っている。</p> <p>●塩化銅水溶液を電気分解したときの電極の様子を答える問題では、市の平均を9.1ポイント下回っている。</p>	<p>・塩化銅水溶液を電気分解したとき発生する物質が、発生する電極を逆に答える誤答が多かったので、ワークシートに実験の途中で気づいたことを記入する欄を作るなど、結果が印象に残り定着するような工夫をする。</p>
生命	<p>領域全体としては、ほぼ市の平均と同等である。</p> <p>○無性生殖について問う問題では、市の平均を4.3ポイント上回っている。</p> <p>●胚の成長の順序を問う問題では、市の平均を10.8ポイント下回っている。</p>	<p>・胚の成長の様子など、身近にはなく本物を目にすることができない教材は、パソコン・視聴覚機器等を活用し、視覚的にわかりやすく伝えられるようにする。</p>
地球	<p>領域全体としては、ほぼ市の平均と同等である。</p> <p>○停滞前線をつくる気団に関する問題では、市の平均を4.6ポイント上回っている。</p> <p>●地層が堆積した年代を推定した理由を答える問題では、市の平均を4.2ポイント下回っている。</p>	<p>・岩石の種類や化石に関する理解が不足していると考えられるので、基本的な知識をくり返し指導することで確実に身に付けさせ、その知識をもとに大地の成り立ちについて考えられるような思考力を身に付けさせる。</p>

宇都宮市立一条中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	79.7	76.8	73.1
	読むこと	67.9	64.5	59.9
	書くこと	58.2	55.3	59.7
観点別	外国語表現の能力	57.5	54.5	59.0
	外国語理解の能力	73.9	70.9	65.9
	言語や文化についての知識・理解	61.5	58.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○本校の平均正答率は市の平均を2.9ポイント上回っている。 ○リスニングの内容理解を得意とする生徒が多く正答率も8割を超えている問題が多い。 ●全体的にみるとよくできているが、スピーチの内容を聞き取り、内容とあっているものを答える正答率が低かった。	・できる限り教師が英語を使って授業を行い、英語を聞く機会を増やしていく。 ・音読に重点を置き、聞こえたとおりに発音する練習を実施し、英語独特のリズムや発音に慣れさせる。
読むこと	○本校の平均正答率は市の英金を3.4ポイント上回っている。 ○すべての設問において市の正答率を上回っている。	・教科書の英文を活用して、効率よく内容を理解できるように指導していく。
書くこと	○本校の平均正答率は市の平均を2.9ポイント上回っている。 ○自分の好きな季節について条件を満たす5文以上のまとまった分で書こうとする意欲が見られる。 ●正しく単語を書いたり正しい用法で書くことを苦手にしている生徒が多い。	・正しく単語を書く力がつくよう定期的に小テストをおこなっていく。 ・教科書でのキーセンテンスを何度も練習し、基本本文の定着を図っていく。 ・習った文法事項を使って伝える活動を取り入れていく。

宇都宮市立一条中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○話し合いを通して考えを広げたり深めたりする学習の工夫を行う。	○教科ごとに工夫をし、考えを広げたり深めたりするための話し合いの機会を積極的に授業に取り入れる。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の質問に対する肯定割合は、82.3%(3年生)、76.4%(2年生)、73.6%(1年生)で、どの学年も市の肯定割合より1.0～6.8ポイント低い。次年度も継続して取り組む必要がある。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

○「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている。」の質問に対する肯定割合は、87.3%(3年生)、76.4%(2年生)、73.0%(1年生)で、3年生は市の肯定割合を3.9ポイント上回っているものの、1、2年生はそれぞれ3ポイント程度下回っている。話し合いを通して考えを広げたり深めたりする学習を積極的に取り入れることで、ものごとをいろいろな視点や立場から考える力の育成を図りたい。